

事後評価書

箇所名	一般国道167号鷲方磯部バイパス		事業名	道路事業	課名	道路建設課
事業概要	工期 (下段前回)	全体：S61年度～H29年度	全体事業費 (下段前回)	全体：14,770百万円(負担率：国5.5：県4.5)		
		全体：S61年度～H29年度		全体：14,565百万円(負担率：国5.5：県4.5)		
事業目的及び内容		<p>■当該路線の状況</p> <p>一般国道167号は、志摩市阿児町を起点として、鳥羽市を經由し伊勢市通町の一般国道23号に至る区間、及び平成25年度に開通した第二伊勢道路を含む、延長約4.9kmの道路です。</p> <p>当路線は、志摩地域と伊勢・鳥羽地域を連絡するとともに、志摩市内においては、市内を南北に縦断する道路であり、沿線地域の生活・産業・観光を支える道路です。また、大規模な災害時には、避難・救助、物資の供給、諸施設の復旧等の広範な応急対策活動に利用される『緊急輸送道路』に指定されています。</p> <p>しかし、現道は、阿児町の鷲方駅周辺の市街地を通過すること、周辺に志摩スペイン村をはじめとする観光施設が多数あることから、市街地において、朝夕や休日・観光シーズンには慢性的に渋滞しています。</p> <p>■事業の目的</p> <p>志摩市市街地の交通渋滞を解消し、安全で円滑な交通の確保を図ります。</p> <p>■事業の内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事業期間 32年間(昭和61年度～平成29年度) ・全体事業費 14,770百万円(工事費：10,560百万円, 用地費：4,210百万円) ・計画延長 L=7.65km(起点) 志摩市阿児町鷲方～(終点) 志摩市磯部町迫間 ・幅員 W=6.50(12.25)m ・主要構造物 磯部トンネル、橋梁5橋 				

1 事業の効果

1-1 費用対効果分析

◆費用便益分析結果

区分		前回 (基準年：H27)	今回評価時 (基準年：R4)	備考
費用	事業費	227.1億円	323.9億円	・事業費の変更
	維持管理費	2.7億円	4.2億円	・三重県の実績値(H24～R3)
	合計	229.7億円	328.0億円	
効果	走行時間短縮便益	381.6億円	655.8億円	・原単位の見直し
	走行経費減少便益	52.1億円	87.9億円	・原単位の見直し
	交通事故減少便益	12.6億円	11.5億円	・原単位の見直し
	合計	446.2億円	755.2億円	
費用便益分析結果(B/C)		1.9	2.3	【共通】 ・マニュアルの変更 ・基準年次の見直し (現在価値化)

※出典：費用便益分析マニュアル(令和4年2月 国土交通省 道路局 都市局)

1-2 費用対効果の検証

◆走行時間短縮効果の検証

当該事業により、志摩市阿児町鷲方から志摩市磯部町恵利原区間の走行時間が約14分短縮しました。
(開通前26分 → 開通後12分)
(距離：開通前10.6km → 開通後9.5km)

◆走行経費減少効果の検証

当該事業により、現道利用時に比べ鷲方磯部バイパス区間の旅行速度が改善され、走行経費が減少しました。
(開通前25.5km/h → 開通後48.8km/h)
(距離：開通前10.6km → 開通後9.5km)

<p>◆交通事故減少効果の検証 鵜方磯部バイパス及び並行路線における、開通前の平成26年～29年の4年間の人身事故件数総数は152件発生していましたが、本事業区間開通後の平成30年～令和3年の4年間では77件と約半減しました。</p>	
<p>1-3 その他の効果</p> <p>◆救急搬送時間短縮効果 志摩市大王町にある志摩市民病院から、伊勢市にある三次救急医療施設の伊勢赤十字病院への転院搬送経路をバイパス区間経路に変更したことで、救急搬送時間が約5分短縮（約55分→約50分）し、救命率の向上に繋がっています。また、線形が良好となり、患者及び救急隊員の負担軽減になったとの声を頂いています。</p> <p>◆観光産業への効果 志摩市中心部（鵜方駅周辺、賢島）と志摩町方面を目的とする交通が現道とバイパスに分散が図られたことで、鵜方駅周辺の賢島口交差点（主要渋滞箇所）の交通渋滞も緩和され、周遊観光の利便性が向上しました。</p> <p>◆物流企業への効果 日本全国から届く荷物を積んだ大型トラックは道路が広くなったバイパスを利用するようになりました。また、志摩市中心部（鵜方駅周辺）全体の混雑も緩和され、生活道路を通り抜ける交通も減り、駅裏の狭い道路における集配作業も効率的に行えるようになりました。</p>	
2 事業の環境面への配慮及び事業による環境の変化	<p>施工中の処理として、降雨により濁水が発生しやすい土質であったため、そのまま濁水を流下させないよう沈砂池の設置や汚濁防止フェンスを設置しました。 事業による環境の変化については、法面に植生工を施工することで周辺環境との調和を図りました。</p>
3 事業を巡る社会経済情勢等の変化	<p>東日本大震災以降、志摩市においても大規模地震による津波被害が想定され、防災対策への意識が高まっています。 また、平成28年の伊勢志摩サミットを受け、志摩市の観光客数は増加傾向にありましたが、令和2年、3年に新型コロナウイルスの影響もあり減少しました。しかし、今年度は新型コロナウイルスの感染拡大も落ち着きつつあり、外国人観光客の入国の制限も緩和されたため、再び観光客数の増加が見込めます。近年は、志摩地域を訪れる来訪者の利用交通手段のうち自動車利用の割合が高く、当該道路の必要性は一層高まっています。</p>
4 県民の意見	<p>一般国道167号鵜方磯部バイパスの意見として志摩市在住の3,000人の住民へアンケートを配布するとともに、住民以外の広域的な地域にお住いの道路利用者に対してWEBアンケートを実施しました。住民アンケートは、1,550通のご回答をいただきました。WEBアンケートにおいては、315名の方からご回答を得られました。地域住民の約97%、道路利用者WEBアンケートでは約96%が満足と回答しています。 また、利便性向上の視点から、関係機関へのヒアリングを実施しました。</p> <p>満足と感ずること 【地域住民・WEBアンケート】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・移動等にかかる所要時間が短縮した ・混雑が少なくなった ・車道が広くなり、自動車等の運転がしやすくなった ・歩道が整備されたため、安心して運転できるようになった <p>不満と感ずること 【地域住民・WEBアンケート】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・通勤時間帯に市内方面が渋滞しやすい ・行き来しやすくなった分、混む道も増えるようになった

関係機関の意見

- ・本事業区間の開通により、搬送時間が約5分短縮し、救命率向上に繋がっています。また、志摩地域は高齢化率も高さから三重県内でも搬送件数が多く（年間4千件程度）重篤患者の搬送においてドクターヘリも利用しますが飛行条件が厳しく、陸路による搬送が多いため、1分1秒を争う搬送において道路整備は必要不可欠です。（志摩市消防本部）
- ・本事業区間の開通前は鵜方駅前の道路がよく渋滞していましたが開通後はそのような光景を見ることはなくなり、観光客の周遊性向上をはじめ、地元住民も市外へ出かけるときに便利になっています。バイパス沿いにある「道の駅 伊勢志摩」の利用者も増加傾向のため志摩市の観光案内所の出張所も新設し、目的地に応じてバイパス利用の案内を差し上げています。（志摩市観光協会）
- ・本事業区間が開通し市内の混雑の減少を実感しています。鵜方駅周辺の生活道路の抜け道交通が少なくなったため集配効率の向上図られました。伊勢から通勤している社員の通勤時間の短縮にもつながっています。（志摩市内大手物流事業者）

5 再評価の経緯

当該事業は、昭和61年度に事業着手し、これまでに平成12年度、平成17年度、平成22年度、平成27年度に再評価を実施しています。平成27年度の再評価において、事業継続の妥当性が認められたことから、事業継続を了承されていました。

6 今後の課題等

- ・鵜方磯部バイパスに接続する土橋交差点の朝夕の交通渋滞残存。

→対応方針：右折滞留長不足に伴う滞留末尾車両のはみだしが後続車両に対し進行阻害を引き起こしていたため、右折滞留長の延伸工事（45m→90m）を実施しました。

引き続き経過観察を行うとともに、渋滞緩和に必要な施策は関係機関と協議のうえ検討を行ってまいります。

※再評価実施事業は（下段前回）とし、前回再評価時の内容を記載する。未実施の場合は（下段当初）とし、当初計画時の内容を記載する。